

飢餓のない世界を目指して

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

wfp.org/jp

NOVEMBER 2012 | Vol.38

TOPICS

- ACジャパン支援キャンペーン「みんなの未来」
- 戦闘続くシリアと周辺国で緊急支援
- 支援の現場から - ブータン「声なき子どもたちに笑顔を」
- 私たちの国連WFP支援
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社
- 「RED CUP CAMPAIGN」レポート
- 「WFPエッセイコンテスト2012」開催報告



赤いカップの給食から、
子どもたちの未来がひろがります。

国連WFPの給食は、栄養たっぷり。
食べられる、だから学べる。
国連WFPの「学校給食プログラム」を応援してください。

WFP オフィシャルサポーター 知花くらら

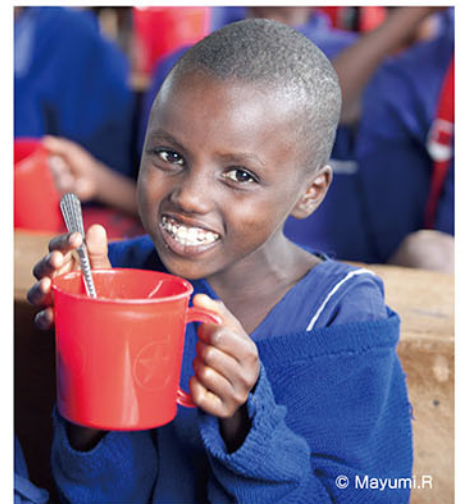
© AC ジャパン

AC ジャパン支援キャンペーン「みんなの未来」 赤いカップの給食からひろがる子どもたちの未来

国連WFPの学校給食プログラムの公共広告が、公益社団法人ACジャパンの支援キャンペーンとして、2012年7月1日より2013年6月30日まで、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌や交通広告などを通じて展開されています。本広告には2007年よりWFPオフィシャルサポーターを務めるモデルの知花くららさんが起用され、「赤いカップの給食から、子どもたちの未来がひろがります。」をキャッチフレーズに、学校給食プログラムへの支援を呼びかけています。広告の中で知花さんは「国連WFPの給食は栄養たっぷり。食べられる、だから学べる。国連WFPの学校給食プログラムを応援してください。」と語りかけ、学校給食の大切さ

を伝えています。途上国には一日一食の食事でも満足に摂ることができず、学校に行くことすら出来ない多くの子ども達があります。本広告はそうした子ども達に栄養たっぷりの給食を届け、空腹を満たすことで学ぶことの活力を育み、明るい未来へとつなげていく国連WFPの学校給食プログラムの役割と使命をアピールしています。放送中のテレビCMは、ACジャパンのホームページ(www.ad-c.or.jp)の支援キャンペーン欄からご覧になれます。知花さんの出演により多くの日本の皆様が飢餓の問題にふれ、関心が高まり、支援の輪が広がることを願っています。

(企画・制作:東急エージェンシー)



© Mayumi.R

国連WFPでは皆様からの継続した支援を必要としています!



知花さんがタンザニアの小学校を訪問
この広告撮影のために、知花さんは牧畜業を営むマサイ族の人びとが暮らすタンザニア東部のロンギド県・エンギカレット村の小学校を訪れました。タンザニアは全人口の4割が慢性的な食糧不足の地域に暮らしており、5歳未満の子どもの42%が低体重で、80%が貧血です。同県では3年連続してひどい干ばつが続いて貧困に拍車がかかり、多くの人びとが深刻な食糧不足で苦しんでいます。結果として、子どもたちは困難な家計を助けるため家事を手伝う等、学校に通うことをあきらめざるを得ない場合もあり、就学率や出席率が低く

中退する子どもが多い状況でした。

「食べる」「学ぶ」ことでひろがる未来
現在、国連WFPはタンザニアの小学校1,167校で64万人以上の生徒に給食を届けています。午前中の軽食としてトウモロコシと大豆の粉にビタミンとミネラルを添加して作った温かいおかゆ、そして昼食には植物油が加えられたトウモロコシや豆の水煮を提供しています。国連WFPは同国のロンギド県を含む16県で、飢餓を緩和させ、また教育が大切なものであるとの理解を地域で浸透させるために学校給食プログラムを実施してい

ます。貧困、自然災害の影響が村を襲う中、学校には給食を目当てに多くの子どもたちが集まっています。給食は学校への呼び水となり、通学率は向上し、子どもたちは空腹が満たされるだけでなく、勉強に専念できています。学校給食は、子どもたちの未来の可能性を大きく広げます。ぜひ学校給食プログラムにご協力ください。

PHOTOS

- 1 小学校で子どもたちと交流する知花さん。
- 2 子どもたちと優しく触れ合うひととき。
- 3 給食で育まれる勉強への活力。
- 4 子どもたちにとって給食は欠かせない存在。
- 5 撮影後に生徒の家庭を訪問。

戦闘続くシリアと周辺国で緊急支援

激しい戦闘が続くシリアでは、多くの人が家を捨て、着の身着のまま避難することを強いられています。国連WFPは、シリア国内ならびにその周辺4カ国(ヨルダン、レバノン、トルコ、イラク)で緊急支援を実施し、急ピッチで拡大させています。



レバノンにて、日本からの支援食糧を受け取るシリア難民。

シリア国内での支援

去年10月、争乱を受けて緊急支援を開始した時は、シリア国内の食糧支援の対象者は5万人でした。しかし戦闘の激化を受け、今年初めには10万人、5月には50万人、8月には85万人、10月末現在で150万人にまで膨れ上がりました。戦闘が激しい地域では食糧価格が2倍になったところもあると報告されており、現地の人びとの生活は困窮しています。

国連WFPは、現地の支援団体であるシリア・アラブ赤新月社と協力し、シリア全土に米・挽き割り小麦・豆・パスタ・油・塩・砂糖などの食糧を届けています。戦闘地域で支援を行うことは容易ではなく、現地の支援団体ですら足を踏み入れることができない地域もありますが、国連WFP職員は臨機応変に対応しながら、できる限りの支援を届けています。

シリア周辺国での支援

戦闘を逃れるため、シリアからヨルダン、レバノン、トルコ、イラクへ脱出したシリア難民は35万人を超え、なおも増え続けています。国連WFPは4カ国で年末までに46万人に食糧支援を実施できるよう、体制を整えています。これまで、難民キャンプに到着したばかりの人には温かい食事とパンを提供し、キャンプに居を構えた人には穀物や豆などを配給してきました。また、都市部の親戚や

知り合いの家に身を寄せている難民に対しては、特定の食品店で食品と交換できる食糧引換券を配っています。この券を使うと、通常の食糧配給では配られない卵や乳製品などの生鮮食品を手に入れることができ、また避難先の地元経済の活性化にもつながります。さらにトルコの難民キャンプでは、トルコ赤新月社との連携のもと、シリア難民にVisaカードを配っています。カードには一人一月当たり45ドル相当が家族の人数に応じてチャージされ、難民は現地のスーパーでこのカードを使って新鮮な野菜や果物、肉、乳製品などを買うことができます。これは国連WFPが最近取り組んでいる「デジタル食糧支援」の一例です。

シリア国内および周辺国での支援活動には2億ドルが必要ですが、44パーセントに相当する8,700万ドルが不足しています。皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

支援の現場から - ブータン「声なき子どもたちに笑顔を」

ヒマラヤ山脈の麓に位置するブータンでは、国民の多くが道路も整備されていない山あいの農村で生活しています。子どもたちは何時間も山道を歩いて通学しなければならず、それが農村部における初等教育の普及を妨げています。農村部で貧しい生活を強いられて栄養不足に苦しむ子どもたちの教育の促進のため、国連WFPは学校給食プログラムを実施しています。自らも子どもの頃、国連WFPの学校給食支援を得ながら教育を受けたという国連WFPブータン事務所代表のドンカードルックにブータンでの活動等について尋ねました。



国連WFPはブータンでどのような活動を実施しているのでしょうか。

ブータンでは基礎教育の学費は無料ですが、制服代などのその他の費用が払えないために学校に行けない子どもが多いために現状です。国連WFPは現在遠隔地にある227の学校で約3万6,000人の児童に、朝と昼の2回、米や豆、栄養強化された植物油で調理された給食を提供しています。家の近くに学校がなく寮生活を送る子どもにも政府と連携して夕食を出しています。

学校給食プログラムの利点と成果を教えてください。

学校給食は子どもたちを学校へ行かせるための非常に強い原動力になっています。教育を受けさせる費用がなければ、親は子どもを学校にやらないからです。国連WFPが支援を開始した1974年以來、学校給食支援はその主な取り組みで、就学率と出席率を向上させることを大きな目的としています。ここ10年間の実質的な初等教育の就学率は、1998年の推定53%（男子58%、女子47%）から、2012年には96%（男子95%、女子96%）と大きく進歩しました。出席率も劇的に上昇しています。通学する子どもの栄養状態も改善され、学業や課外活動の成果も向上しています。



最新の活動成果は何ですか。

まずは就学率が向上していること、特に女子生徒の教育機会が拡大していることです。また、国連WFPの給食支援をいずれは卒業し、政府だけで給食事業を実施していかなければならないことを認識してもらい、そのための能力開発支援を行っていることがあげられます。国連WFPは、2008年より第9学年から第12学年（日本の中学校3年生と高等学校生徒に相当）に対する給食支援を政府主体の事業へと切り替えました。今後は2018年までに全ての活動を政府へと移行するための支援に重点を置き実施します。

国連WFPの仕事をしていて、一番好きなことは何ですか。

貧困の犠牲となる何千人もの声なき子どもたちに笑顔をもたらすことに携われていることで、自分の人生がより有意義であると感じることができています。私の人生に目的を抱かせてくれた子どもたちがより豊かに暮らしていくことを心から願っています。

国連WFPでは皆様からの継続した支援を必要としています！

私たちの国連WFP支援 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社

全国のケンタッキーフライドチキン(以下KFC)、ピザハット及びピザハット・ナチュラルを展開する日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社は、2007年より国連WFPの「学校給食プログラム」を支援しています。

同社は、国連WFPのグローバルパートナーであるKFCやピザハットなどを展開する「ヤム・ブランズ」が全世界で取り組む募金キャンペーン「World Hunger Relief Week(世界飢餓救済週間)」に、グループ会社として参加しています。2007年の第1回の活動開始以降、毎年このキャンペーンを実施、本年度で6回目の取り組みとなります。インターネット募金の受付をはじめ、全国のKFC及びピザハット・ナチュラル店舗では、年間を通じて募金箱を設置しています。また、ピザハットでは、本年度の支援活動として、9月17日～11月18日の期間、全国のピザハットで「ハットチャリティ4」を注文すると、売上の一部が寄付

されるという取り組みが行われました。チャリティウォークイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド」では、同社渡辺社長をはじめ、毎回多くの社員やご家族の皆様がお揃いのオリジナルTシャツを着用し、子どもたちの飢餓をなくすために横浜を歩いています。

ご担当の広報室マネージャー横川すめおさんは、「私どもの従業員はもとより、グループ店舗約1550店が媒体となることで、ご利用いただくお客様にも、食糧支援を必要としている人たちがいることに関心をもっただければと思います。これまでの活動を通じて、小さな思いも集まれば大きな支援につながることを



実感しています。これからも、遠い所の事ではなく、同じ地球で同じ時を生きる身近な仲間として支援しようという思いが広がるよう、お手伝いができればと考えております。」と同社の支援への想いを話しています。

国連WFPでは「皆さんの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく。」を願いとして、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。様々な企業が売り上げの一部をご寄付いただく取り組みを展開していますが、2012年5月以降、新たにキャンペーンに参加していただいた企業をご紹介します。1人でも多くの方々がこの取り組みをサポートして下さることが、1人でも多くの子どもに栄養たっぷりの給食を届けるという目標につながります。多くの方々にキャンペーンについて知っていただき、支援の輪が広がることを願っています。

株式会社湖池屋

2012年5月28日から発売されている「ポリンキー」の売り上げの一部が、このキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©湖池屋

株式会社中村屋

2012年8月から順次発売されている「技あり仕込みビーフカレー」、「肉まん6個入、肉まん・あんまん6個入」の売り上げの一部がレッドカップキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©中村屋

キューピー株式会社

2012年9月14日から発売されているキューピーベビーフード「かむかむ赤ちゃん」シリーズの売り上げの一部がレッドカップキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©キューピー

株式会社ファミリーマート

2012年10月30日から発売されているファミリーマートの新プライベートブランド FamilyMart collection「きつねうどん」「天ぷらそば」の売り上げの一部がレッドカップキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©ファミリーマート

「WFPエッセイコンテスト2012」開催報告

国連WFPは本年度、「食べる大切さ」をテーマに「WFPエッセイコンテスト2012」を開催し、7月15日から9月28日までの間、小学4年生以上の方を対象に作品を募集しました。全国から6,160通の作品が寄せられ、審査の結果、最優秀賞にあたるWFP賞には、静岡県にお住いの近藤順子さんの作品「このころの日」が選ばれました。11月9日には入賞者の皆様をお招きし、表彰式を開催し、審査委員長の湯川れい子さんに講評をいただいたほか、特別審査員の竹下景子さんにWFP賞の作品を会場で朗読して

いただきました。その際の動画は、コンテスト専用ウェブサイト(www.redcup.jp/essay2012/)で、その他の入賞作品とともに掲載しておりますので是非ご覧ください。

また、応募1作品につき、給食約一日分(30円)が特別協賛社から寄付されます。寄付額は184,800円となり、学校給食プログラムを通じておよそ6千人の子ども達に栄養たっぷりの給食を届けることができます。ご参加・ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



©JAWFP

国連WFPでは皆様からの継続した支援を必要としています!



©WFP/Rein Skullerud

世界には、学校給食が一日で唯一の食事となる子どもたちが大勢います。年末に向けて大切な人と過ごすひとときが増えるこの季節に、世界の子どもたちにも「給食」のプレゼントを送ってみませんか? 皆様からのご支援で、飢えと貧困に苦しむ子どもたちに栄養たっぷりの給食を届けることができます。一日およそ30円の給食が、子どもたちの未来を支える希望となります。

任意の金額をご寄付いただく方法の他に、毎月一定額を自動引落しなどをご寄付いただく「マンスリー募金」もあります。

例えば 5,000 円のご寄付で、子ども 1 人に栄養たっぷりの学校給食を 1 年間届けることができます。

寄付方法

※国連WFPへのご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置を受けられます。

- ✓ クレジットカードで
- ✓ 銀行またはゆうちょ銀行から
- ✓ 楽天銀行から

<p>お申込み、 お問い合わせは こちらから ▶▶▶</p>	<p> 0120-496-819 受付時間9:00~18:00(年末年始を除く毎日) 携帯電話・PHSからもつながります</p>	<p>携帯電話で </p> <p>モバイルサイトは こちらのQRコード から ▶▶▶▶▶▶</p>
<p>インターネットで www.wfp.org/jp</p>		

国連WFP 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィック横浜6階
0120-496-819 受付時間 9:00~18:00(年末年始を除く毎日) www.wfp.org/jp